

## 永続性・越夏性に優れる 中生品種

# トールフェスク「ウシブエ」

トールフェスクは、環境適応性に優れ、北海道から九州までの広い地域で栽培されています。「ウシブエ」は、永続性に優れ、放牧における収量性と家畜の生産性に優れる中生品種です。

**栽培適地；東北南部から九州まで適応可能**



写真1 越夏後の草姿（2006/9/12熊本・合志） 左：市販品種 右：ウシブエ

**「ウシブエ」は、既存品種より収量性や永続性が改良された品種で、生育環境がより厳しい低標高地での利用も期待されています。 里山農地を活用した放牧草地の造成で自給飼料の確保も改善されます。**

表1 トールフェスク「ウシブエ」の生育特性

特性	ウシブエ	サザンクロス	備考
定着時草勢 <sup>1)</sup>	6.6	6.3	9場の平均値
出穂始日	4月24日	4月26日	9場3年間の平均値
年間乾物収量(kg/a)	168.9	161.3	9場3年間の平均値
越夏後の再生程度 <sup>1)</sup>	5.9	5.8	9場3年間の平均値
利用3年目の最終番草乾物収量(kg/a)	22.9	21.7	9場の平均値
利用3年目の秋の被度(%)	83	76	7場の平均値
冠さび病抵抗性	中	中	特検での判定
網斑病罹病程度 <sup>2)</sup>	1.8	2.4	5場3年間の平均値
葉腐れ病罹病程度 <sup>2)</sup>	3.0	3.2	6場3年間の平均値
いもち病罹病程度 <sup>2)</sup>	0.9	2.0	2場2年間の平均値
放牧試験における年間乾物採食量(kg/a)	41.3	36.8	2場2年間の平均値
放牧試験における採食率(%) <sup>3)</sup>	45.2	45.1	2場2年間の平均値

1)1:極不良-9:極良。2)1:無, 極微-9:甚。

3)放牧前後の前後差法により算出。

— 「ウシブエ」を利用した肉牛繁殖牛の冬期放牧（九州沖縄農研） —

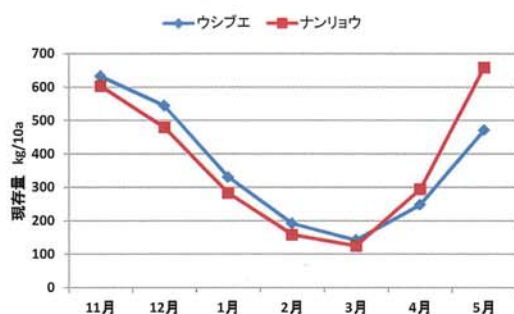


図1 現存量の推移

冬期放牧に必要な「ウシブエ」の備蓄量は、既存品種で越夏性に優れる早生品種「ナンリョウ」と同程度に確保可能です。

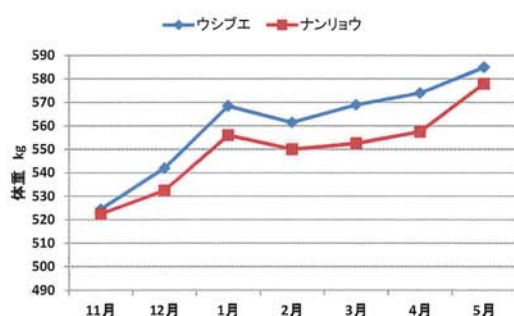


図2 供試牛の体重の推移

放牧期間中の体重増加量はウシブエ区60.5kg、ナンリョウ区55.5kgと良好です。

栽培上の注意点

- 1) 既存品種と同様の栽培管理で利用できます。
- 2) 既存品種の利用で夏枯れや永続性が問題となっている地域では、越夏性を十分発揮させるため、夏季の利用は避けて下さい。

【育成機関】 問い合わせ先：

(独)九州沖縄農業研究センター 合志拠点

畜産草地研究領域 飼料作物育種グループ

TEL : 092-242-1150